

第5学年 道徳科（人権）学習指導案

令和4年 月 日（ ） 校時
5年
指導者

1 主題 かけがえのない命

2 主題設定の理由

すべての人が、生まれながらに人間としての尊厳を有し、自分らしく生きる権利をもっている。児童には、そのことを忘れることなく、自分の大切さも周りの人の大切さも実感しながら、かけがえのない命を大切に、人権侵害を決して許さない生き方を身に付けていってほしい。そして、互いに認め合い、支え合って生きるために絶えず自分を見つめ直してほしいと願っている。

本学級の児童は明るく素直であり、黒板の掃除や学習物の配達を進んで行うほか、「先生、何かお手伝いできることはありますか」と自主的に動くことができる。5月には、学級目標「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を掲げた。全員がその目標に向かって前進しようとしている。一人一人がかけがえのない存在として互いに認め合い、自他ともに大切にできる学級集団づくりをめざして、日々の学習や活動に取り組んでいる。

本教材は、11歳で亡くなった宮越由貴奈さんの詩「命」と、由貴奈さんのエピソードを紹介した解説文で構成されている。「命」は、生命のかけがえのなさや、命を無駄にする人に対するメッセージが込められている詩である。生きるためのエネルギーとして、命を電池に例えている由貴奈さんは、命と電池の違いにも気付く。そして、命あるかぎり精いっぱい生きなければならないということを、詩を通して力強く訴えている。詩から伝わる、由貴奈さんの命に対する思いから、自分がどのように命を捉え、生きていこうとするかをじっくり考えさせたい。そして、自分の命を大切にすること、他者の命も大切にすること、自分の命を大切に思ってくれている誰かがいること、一生懸命生きることによって自分の命をまっとうできるということを深く考えさせていきたい。さらに、これまで自分が命をどのように捉えてきたかを振り返りながら、これからどのように生きていくのか考え行動できるようにするきっかけとしたいと考え、本主題を設定した。

3 ねらい

宮越由貴奈さんが書いた「命」についての詩やエピソードを通して、命とはどのようなものか考えさせ、自他の生命を大切に思う思いや、限りある命を懸命に生きようとする態度を育てる。

4 指導計画

(1) これまでの学習

- ・学級活動「学級のめあてを決めよう」・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- ・道徳科「ママはずっといっしょだからね」（ひかり）・・・・・・・・・・1時間
- ・道徳科「ぼくの心のそこ」（ひかり）・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- ・理科「ヒトのたんじょう」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6時間
- ・国語科「たずねびと」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6時間

(2) 現在の学習

- ・道徳科「命の詩—電池が切れるまで」（光村図書）・・・・・・・・・・1時間（本時）

(3) これからの学習

- ・国語科「やなせたかし アンパンマンの勇気」・・・・・・・・・・ 5時間
- ・道徳科「おばあちゃんからもらった命」(光村図書)・・・・・・・・ 1時間

5 本時

(1) 目標

「命」の詩に込められた思いを考えるを通して、これからの生き方について話し合うことにより、自他共に大切に生きて生きようとする意欲を高める。

ねらいとする道徳的価値 D-(19) 生命の尊さ

(2) 普遍的な学習のテーマ 命の大切さ

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 「命」の詩を読み、本時のめあてをつかむ。	○自分にとって、命とはどんなものかについて考えさせる。
「命」の詩にこめられた由貴奈さんの思いから考えよう。	
2 「命」の詩にこめられた由貴奈さんの思いについて考える。	○由貴奈さんの生き方を振り返りながら、「命」の詩にこめられた思いを話し合うことができるようにする。 ・命と電池の違いについて考えさせる。 ・受け継がれてきた命について考えさせる。
3 これまでの学習を振り返り、これからの生き方について考える。	○由貴奈さんの「命」の詩に込められた思いから、これからの自分について話し合うことにより、生活に生かすことができるようにする。 ①
4 本時のまとめをする。	○友達の発表を聞き、由貴奈さんの精いっぱい生きた姿を思い出して、周りの人を大切にしようとする意欲を高める。 ②

(4) 評価

- ・命を大切にすることは、自分と周りの人を大切にすることであることを理解できたか。 (知識的側面) ①
- ・自他共に大切に生きて生きようとする意欲を高めることができたか。 (価値的・態度的側面) ②